



市長 からの 手紙

②被災地支援

7月前半、岩手県の大槌町^{おおつちちょう}と宮城県^{いしのまきし}の石巻市に派遣職員の激励と復興の現状視察に行きました。川越市からは、大槌町に都市計画関係の技術職員2名(男性)を、石巻市に建築関係の技術職員1名(女性)を、それぞれ派遣しています。昨年も激励に行きたかったのですが、約半年間腰痛がひどく行けませんでした。

大槌町は、町長はじめ町職員の約3分の1が津波の犠牲になってしまったところです。川越市は昨年都市計画関係の技術職員を派遣しており、津波で何もなくなってしまった街を再建する業務担当として現地高い評価を受けています。復興計画の概要は、海岸に高さ14mの防潮堤をつくり、JR 鉄道敷跡地より海側は公園とし、山側を約2メートルかさ上げして新たな街をつくるものだそうです。

派遣している職員2人は、夜10時過ぎまでの残業が続くなか、食事の心配が大変そうでした。

石巻市では、街なかの市庁舎も津波で1~2mまで水に漬かってしまい、海岸近くの出張所では、たまたま市議会に出席するために本庁舎に来ていた出張所長を除く全職員が津波の犠牲になったところがあるとのことでした。川越市からの派遣職員は、建物や橋の修復に携っており、元気に活躍していました。

大槌町でも石巻市でも、全国の自治体から派遣された職員同士で助け合いながら、被災地の職員とともに復興のための行政の仕事に取り組んでいました。川越市の職員も元気でそれぞれの職責を立派に果たしている様子で、安心しました。苦労をいとわず、自ら志願して被災地のために貢献してくれている職員は、川越市の誇りです。

現地を見る限りでは、復興にはまだまだ時間がかかりそうです。全国から官民挙げての支援が続いていますが、それでも被災地の復興はかなりの長丁場になるでしょう。市としても被災地の1日も早い復興を支援するため、職員派遣は続けていきます。

川越市長 川合善明

小江戸川越みどころ90観光コース 4

観光課 224・5940

今回は夏の散策にぴったりな「妖怪伝説」コースです。このコースは、小江戸蔵里を起点とし、キツネが夢に現れて難から逃れられたという「キツネのお告げ伝説」が残る松江町の出世稲荷神社、川越城築城の際に南西の森を切り開いたところ、家臣が神隠しに遭ったという「神隠し伝説」の残る仲町の烏山神社など古くからの言い伝えが残るいくつかのスポットを回ります。

コースの一つに幸町にある雪塚稲荷神社があります。この神社には「白狐の祟り」という伝説が残っています。江戸の昔、大雪が降る夜、一匹の白いキツネが迷い込みました。それを見た若者数人が白狐を打ち殺してしまったところ、毎晩大きな火の玉が現れるようになりまし。雪塚稲荷神社は白狐の祟りを鎮めるために建てられ、それが雪の降る日だったことにちなみその名がつけました。

このほかにも、島原の乱の際に処刑した門徒の復讐を恐れて建てたと言われている「遊佐地蔵」が残る連雀町の蓮馨寺などのスポットを紹介しています。夏休みのきもだめしに「妖怪伝説」コースを回ってみてはいかがでしょうか？

90コースは市ホームページで確認できます。ご利用ください。

妖怪伝説

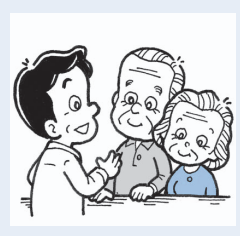


みんなで支えよう 大切な人

高齢者いきがい課 224-5809

トキノ家の認知症介護奮闘記その5
 ヒロシさんは、認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について理解を深めてきました。しかし、妻のヤスヨさんの今後の症状の進行などについては不安がありました。そんなある日、地域包括支援センターのスズキさんから電話がありました。「今度、認知症相談会を行います。県の指定を受けている認知症疾患医療センターの相談員が、無料で相談に乗ってくれます。よ

かったらヤスヨさんと一緒に参加してみませんか？」と提案してくれました。そこでヒロシさんはヤスヨさんと一緒に参加することにしました。
 相談会当日、スズキさんはヒロシさんと一緒に相談内容を整理してくれました。
 相談員は、まずヤスヨさん、次にヒロシさんと話をしました。ヒロシさんは、ヤスヨさんが毎日同じものを買ってしまうことなどヤスヨさんの行動で



不安に思っていることについて相談しました。相談員は、症状の進行の可能性や家族の接し方について具体的なアドバイスをしました。また、この機会に介護保険の申請を勧められたため、ヒロシさんは、ヤスヨさんとスズキさんに相談し、申請をすることにしました。

家庭教育のスズメ

いきいき子育て 親育ち ⑤

さまざまな体験活動は子どもを成長させます。特に地域行事への参加体験は、子どもたちに地域の人々との温かいふれあいや、学びの場を与えてくれます。
 今回は、地域行事への参加について、考えていきます。

地域教育支援課
 224-6086



地域行事参加のメリット
 地域のボランティア活動に参加することで、地域や社会のために何かをするという経験をし、子どもは喜びを感じます。それは、他人を思いやる心や豊かな感情を持つことにつながります。

● 行事によつては、年齢の違う集団の中で、子どもたちが切磋琢磨する機会が得られます

- 子どもたちは、地域の人々との交流によつて刺激を受け、その中で人間関係のルール、公共心や決まりを守る意識などが育ちます
- 親子で参加したり、子どもを小さい時から参加させたりすることにより、自然と自分の住む地域への愛着が生まれます
- 顔見知りが増え、近所の人とのつながりが生まれます。また、何かあった時、子どもも大人もお互いに声をかけやすくなります

地域行事の例

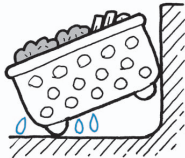
- ラジオ体操
- 祭りや盆踊りなどの伝統行事
- 清掃活動や体育祭など

小さい頃からのさまざまな体験が、子どもたちの「豊かな人間性や健康な体といった生きる力」を育てます。さあ、一歩踏み出して、親も子どもも地域行事に出かけてみましょう。

ごみ処理とぴくす ちよつとひと手間 ごみ減量の「水切り」技 資源循環推進課 239-6267

生ごみなどを捨てる前に、ひと絞りするなどの水切りを行うと、集積所に出す時にごみ袋が軽くなる、ごみ焼却炉の燃焼効率上がるなどさまざまな効果があります。ごみの「水切り」減量に取り組んでみませんか。

三角コーナーを斜めにセット



斜めに傾けると、水分がたまるのを防ぐことができます。手軽にできる方法です。

水切りネットを浅くする



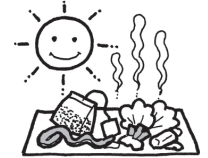
ネットを浅くし、水につかないようにします。こまめに水切りをするとさらに効果的。

手で絞る



捨てる前に手で水分をしっかり絞ります。最も確実にシンプルな方法です。

天日で乾かす



野菜くずやティーバッグは、天日干ししてからごみ箱へ。風で飛ばないように注意。